

## 町田青年会議所講演会に参加して

7月21日(水)一般社団法人町田青年会議所主催で『多文化共生の実現へ～地域で創るまちづくり～』が開催されました。当初、対面での開催も予定されていましたが、残念ながらすべてオンラインでの開催となりました。

少子高齢化が日本における重要な問題となり、この問題に対し国では新たに出入国管理法が改正され、外国人労働者の流入を推進する動きがあります。早急な多文化共生社会実現に向けての対策が必要となります。そのためには、「多文化共生社会」の実現に向けた主体者意識を地域の方々が持つ必要があります。そのような環境でこの講座が開催されました。

最初に、横浜市国際交流協会事務局次長である坂本淳氏が「多文化共生」とは何かを講演されました。続いて、町田市の状況について私からお話させていただきました。町田市の外国人の状況と市での対応の後、町田国際交流センターでの多文化共生に向けての取り組みについて紹介しました。その後、各グループに分かれ、一人一人できることなどを話し合いました。

町田市では行政や街単位ではまだまだ体制が整ってありませんが、この講演会を通して、この整備には町田国際交流センターがリーダーシップをとるなど、センターの必要性・役割を改めて感じました。今後必ず迎えるであろう壁に対し、将来のまちづくりの観点から、今私達は外国人をどう受け入れ、共生していくべきなのか私も大変勉強になりました。

地域日本語コーディネーター 荒明美奈子



オンラインでの当日の様子

ぼろんていえ

**Volontiers!** の由来：誘われたとき、頼まれたとき「喜んで！」と笑顔で応えるフランス語

町田国際交流センターではボランティアを中心に、日本にいる外国の方を支援したり、コミュニケーションの活性化をはかるなど、様々な活動を行っています。

国際交流事業やボランティアのお問い合わせは、町田国際交流センターまで



# KOKUSAI インタビュー

日本語教室部会 小瀬澤正春 さん

## Q 所属部会・活動年数

日本語教室部会の火曜日午前のクラスに、2002年12月に入部しました。今日まで19年間の在籍になりました。なお同年4月から11月までは「日本語学習支援ボランティア基礎講座」に参加していました。

## Q ボランティアを始めたきっかけは？

退職の定年60歳を控えて自分の人生を充実させるものの一つとして、このボランティアが第一にあがりました。また平成8年(1996年)頃に町田市主催のスペイン語入門講座を受けてから語学に興味を持ったのも一因です。ネイティブの先生がお国の風俗習慣を交えながらの学習は興味深いもので、講座後独自に約7年の継続学習となりました。海外旅行にも興味があったことも大きなきっかけになったと思います。

## Q ボランティア活動でうれしかったこと、楽しかったことは？

学習者が覚えた日本語をその後の学習時に上手く使いこなし、日々上達していく様子が分かるときは嬉しかったです。日本語教室部会主催の日本語発表会での堂々とした発表には学習者の違った一面を見ることもでき頼もしく感じられました。さらに年一回発行する文集にも上達の跡が筆跡にも残されていて嬉しいものでした。また黙々と一人で勉強、日本語能力試験に挑戦、合格したとの報告を聞き頼もしく、嬉しい思いでした。また、年一回催行のクラス内交流会も言葉を交わすことのない者同士がコミュニケーションを交わし親交のきっかけになっていて、レストランで昼食を取っている姿など見ると微笑ましく思いました。

## Q ボランティア活動休止中にチャレンジ、熱中していることは？

早朝、約一時間のスロージョギングで途中ラジオ体操に参加しています。「数独」で脳に刺激を与え、読書、「日本歴史を逆から学べ」河合敦(町田市の作家)を集中して読んでいます。



## 外国人相談部会 中島 康代 さん

## Q 所属部会・活動年数

外国人相談部会 6年目

## Q ボランティアを始めたきっかけは？

8年前にオリンピック2020大会が東京に決定した時、オリンピックでボランティアをしてみたいとの思いが漠然とありました。その後、町田市に転居して来て町田国際交流センターがあることを知りました。すでにシニア世代になっていたこともあり、外国人の方への支援ボランティアをやってみたい、と入会しました。ボランティアは全く初めて、1年目はどの部会にも所属せず様子を見ていました。そして翌年の春、活動紹介のオリエンテーションに参加した際に相談部会に入りました。



## Q ボランティア活動でうれしかったこと、楽しかったことは？

コロナ禍以前は、妊婦さんの定期健診での同行通訳の機会も多く、様々な国の妊婦さんと病院でお会いするうちに、待合室ではスマホの写真を見せながら、母国のお話をしてくださることもあり、親近感が湧いて楽しいひと時でした。赤ちゃんが生まれて1か月検診の自宅訪問では、いつも“ばあば”の気分で保健師さんと伺いました。

## Q ボランティア活動休止中にチャレンジ、熱中していることは？

相談部会では、部会員有志で医療通訳の勉強会を月3回ペース、Zoomで続けています。病院への同行通訳の活動ができる時が来たらすぐに対応できるようにと、みんなで楽しみながらも脳に刺激を与えています。個人的には、中途半端に挫折していたピアノとイタリア語を再開しました。こちらも頑張って続けたいと思っています。

## 子ども教室部会 大高 綾音 さん

## Q 所属部会・活動年数

子ども教室 約3年

## Q ボランティアを始めたきっかけは？

私はもともと語学を学ぶことが好きでした。学び続けていると次第に自分が学習者としてではなく、教える側の立場になり学習者の様子を知りたいと思うようになりました。その想いを大学の先生に話すと子ども教室を紹介してくれ参加するようになりました。

## Q ボランティア活動でうれしかったこと、楽しかったことは？

子ども教室では支援者と学習者の立場が関係なくいつも学びにあふれています。子どもを通して支援者が学ぶことができる空間であり、また支援者同士でいつも助けあえる空間でもあります。私にとって、そこでの楽しみはそこで交わされる交流に笑顔が見えるときです。

## Q ボランティア活動休止中にチャレンジ、熱中していることは？

子ども教室は活動の形態をオンラインに変えて継続して活動していました。そのため活動が休止することはなかったのですが、ボランティア以外では私の趣味の一つであるピアノを弾くことに熱中していました。心が晴れないときや気持ちを入れ替えたいときにピアノを弾くことで気分転換となり、頭をリセットさせることが出来ます。なかなかピアノを練習する時間が取れず一曲を完璧に弾けるようになるまで時間がかかりますが、隙間時間を見つけてたくさん練習していきたいと今は考えています。



## 生涯学習センター

# 今年度の「町田市生涯学習センターまつり」はインターネットで開催します！

「生涯学習センターまつり」は、日ごろ生涯学習センター（まちだ中央公民館）を利用されているサークル・団体の皆さんが、活動の成果を披露する発表の場です。2021年は昨年につき、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、町田市ホームページで団体の活動を発表するインターネット型で実施します。

詳細は、生涯学習センターホームページ、Twitterをチェック！。

**対 象** どなたでも

**U R L** 町田市ホームページ

<https://www.city.machida.tokyo.jp/>

町田市生涯学習センターホームページ

[https://www.city.machida.tokyo.jp/bunka/bunka\\_geijutsu/cul/chuokominkan/cul07.html](https://www.city.machida.tokyo.jp/bunka/bunka_geijutsu/cul/chuokominkan/cul07.html)

※「町田市生涯学習センターまつり」で検索

**Twitter** [https://twitter.com/machida\\_manabi](https://twitter.com/machida_manabi)  
アカウント：@machida\_manabi



### 申込・問合せ

町田市生涯学習センター（町田市原町田6-8-1 町田センタービル6・7・8階）

TEL 042-728-0071 FAX 042-728-0073

休館日 毎月第4月曜日（祝日の場合は翌日）および年末年始（12月29日～1月3日）

## 編集後記

今年も余すところ1か月とちょっと。紅葉の11月を迎え、寒さを感じる季節への準備など普段の生活はめまぐるしく変わっていきます。今までの自分たちの生活を規制する普段と異なる生活環境、そして社会のためという自己規制の下での10月の政府による規制の解除は、私たちには今一つ実感が湧きません。規制がゆるんだからといってすべてが開放されるわけではなく、ボランティア活動の場が以前のようにはないのが現実です。

しかし、半分身構えながらも、日ごろ考えている目標なり企画などが少しずつでも実現できる環境となり、ボランティア活動を休止していた方々の再スタートに期待したいと思います。